

日本の海事工学に関する博物館について(その4) : 中部地方

著者	庄司 邦昭
雑誌名	東京商船大学研究報告. 人文科学
巻	50
ページ	75-102
発行年	1999
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00000591/

日本の海事工学に関する博物館について（その4）

－中部地方－

庄 司 邦 昭

On the Museums on Marine Engineering in Japan (Part 4) －Chubu－

Kuniaki Shoji

Abstract

It is important issue to research on the museums by collectiong data about marine engineering. Author researched data of foreign countries from 1989 to 1996 and those are already reported. In Japan he has already reported on the museums in Hokkaido, Tohoku and Kanto area. In this paper author collected the museums which concerned marine engineering in Chubu district in Japan. He visited 8 museums and collected 41 museums in this area.

1. 緒言

世界各地に保存されている船舶関係資料について実態を調査することは、海事工学の発展にとって重要なことであると考えられる。

著者は以前に1989年から1996年にわたり、諸外国における調査結果を文献調査と現地調査によって纏めてきた^{(1)~(7)}。さらにヨーロッパの船の博物館については完全とはいえないが集大成することができた⁽⁸⁾。またその後、1997年から日本における船舶関係資料について調査を始めた^{(9)~(11)}。本報告は日本における調査の第4報として中部地方の海事資料について調査したので以下に報告する。

2. 現地調査結果

2.1 静岡県

(1) 戸田村立造船郷土資料博物館（戸田村）

船の博物館のなかで「郷土資料」と並列におかれているとはいえ、「造船」と名のつく博物館は数少ない。特に日本では貴重な存在である。

もし1854年12月24日（安政元年11月4日）に下田で地震が起こらなければ、もし幕府がロシアに対しクリミア戦争の相手国のイギリス、フランスとの関係を考慮して木造帆船「ディアナ」の修理場所を戸田（へだ）村に決めなければ、戸田に近代造船学は生まれなかったし、それ以降の戸田村と旧ソビエト連邦との特別な友好関係は見られなかったし、戸田村に「造船」の博物館は建設されなかった。

この地でディアナの修理に船大工として働いた7人がその後の日本の造船業の主要なメンバーとなって活躍した。上田寅吉は長崎海軍伝習所へ派遣され、オランダへ留学し、「開陽丸」の建造に関わり、横須賀造船所の初代工長となった。鈴木七助は長崎海軍伝習所へ派遣され、その後横須賀製鉄所で働いた。石原藤蔵、堤藤吉、佐山太郎兵衛、渡辺金石衛門は幕府の命令で石川島造船所へ技師として迎えられた。佐山は後に独立して大阪の難波島に造船所を開いた。緒明嘉吉は息子の菊三郎が技術を引き継いで、隅田川の高橋付近に造船所をつくり「一銭蒸気」の渡

し船を建造し運航させ、1883年（明治16年）には品川沖第四砲台跡を陸軍省から借りて緒明造船所を開設した。

木造船「ヘダ」は設計図によれば全長81尺1寸、竜骨長さ62尺5寸、全幅23尺2寸、喫水9尺9寸であった。（1尺=10寸=10/33m）。1855年4月27日（安政2年3月10日）に進水し、5月8日（3月22日）に戸田を出港し、無事に黒竜江口のニコライエフスクに到着した。

博物館には、日本において外国人に直接指導を受けながら建造されたはじめての洋式帆船「ヘダ」の模型や設計図が展示されている。これらは近代造船学の出発点を示す貴重な資料である。戸田には博物館以外にも牛ヶ洞の造船所跡、御用係勝呂弥三兵衛邸の仮奉行所跡、御用係太田亀三郎邸の造船設計所跡、御用係松城兵作邸、船大工緒明邸跡、プチャーチンの宿舎になった宝泉寺、ロシア兵の宿舎になった本善寺、など村内の至る所に洋式帆船建造に関する史跡が残されている。

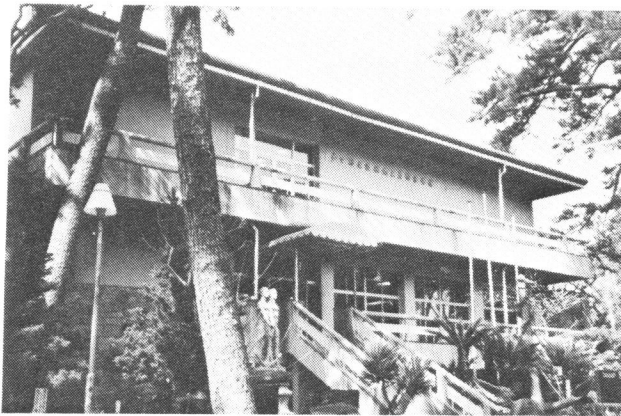


写真1 戸田村立造船郷土資料博物館

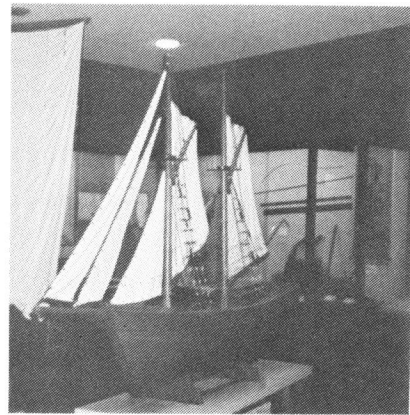


写真2 ヘダ模型

〈データ〉

名 称：戸田村立造船郷土資料博物館

所 在 地：41034 静岡県田方郡戸田村戸田2710-1

電 話：(055894) 2384

交 通：バ ス：修善寺より戸田まで約50分、徒歩30分

観光船：沼津港より戸田港まで50分（高速船25分）、徒歩30分

所 属：戸田村

沿 革：1969年（昭和44年）7月1日開館

入館時間：9：00～16：30

休 館 日：金曜日、12月29日～31日

入 館 料：大人200円、小人100円

写真撮影：可

出 版 物：○戸田村立造船郷土資料博物館（無料パンフレット）

○収蔵目録（1981年12月発行）

展 示：○「ディアナ」模型（1/48）

○「ヘダ」模型（スクーター型帆船）

○「ヘダ」設計図

コンストラクションプロファイル、船体正面線図、平面図、帆柱と帆

○造船用具

墨台、飾墨つぼ、斧（木挽き用）、鋸（木挽き用）、曲尺、バッテン

○千石船模型

○「パルラダ」木片

○「ディアナ」錨（館外展示）

参考文献：○樋口秀雄、加藤有次：父と子の博物館、富士書店、pp.148～149（1976年7月30日第1刷）

○考古学ライブラリー編集部編：博物館・資料館案内Ⅰー考古・歴史・民族ー、ニューサイエンス社考古学ライブラリー7、p.69（1984年1月20日再版発行）

○吉羽和夫：続・科学の散歩道、共立出版共立科学ブックス43、pp.184～185（1979年12月20日初版第1刷発行）

○玉置正美：産業遺跡探訪、古今書院、pp.200～205（1985年9月7日初版第1刷発行）

○大南勝彦：ペテルブルグからの黒船、六興出版（1973年11月30日発行）

○高野明：プチャーチンの来航と戸田の造船、海事史研究第6号、pp.16～36（1966年4月）

○飯塚つとむ：戸田号建造物語、国土社ノンフィクション全集5（1975年4月20日初版発行）

○プチャーチンの来航戸田村に於ける露盤建造、戸田村教育委員会発行

○戸田村文化財専門委員会編輯：ヘダ号の建造ー幕末におけるー、戸田村教育委員会発行（1979年12月25日初版発行）

（1985年3月22日現在）

(2) フェルケール博物館（清水市）

フェルケール博物館は1978年7月20日の海の記念日に清水港湾資料館として発足した。その後、日の出埠頭の再開発計画に呼応して規模内容を充実させ、1990年4月から新館建設に着手し、1991年（平成3年）5月3日に名称を変えて現在の建物にて開館した。フェルケールがドイツ語の「der Verkehr」だとパンフレットをみるまでは気が着かなかった。内容からはこの名称が意味する「交通」よりもとの「港湾」のほうがふさわしいのではないだろうか。展示は5つのゾーンに分かれ、Aゾーンでは港の歴史、港をつくる様子、港をつくる道具、港のきまり、Bゾーンでは荷役の道具、船をつくる道具、漁具、Cゾーンでは輸出品や荷役の道具、Dゾーンでは港湾の未来、そしてEゾーンは特別展示室となっている。

港内用艇、潜水用伝馬船など港に関わりのある船や小型貨物船など船のなかでも脇役の模型船が大切に保存されているのが特徴であろう。またこれらの模型船の絵葉書がつくられているのも良い。



写真3 フェルケール博物館



写真4 九尺型八丁櫓船「盛漁丸」模型と船釘

〈データ〉

名 称：フェルケール博物館

英 名：Shimizu Port Terminal Museum

所 在 地：424 清水市港町2-8-11

電 話：0543-52-8060

交 通：国鉄東海道線清水駅より静鉄バス「波止場」下車

沿 革：1978年（昭和53年）7月20日開館

所 属：財団法人 清水港湾博物館

入館時間：9：30～16：30

休 館 日：月曜日（祝日や振替休日のときは開館）、年末年始（12月29日～1月3日）

入 館 料：大人400円、中高生300円、小学生200円

写真撮影：可

出 版 物：無料パンフレット

案内（400円）

船の模型絵葉書（400円）

展 示：〈模型船〉

○機帆船「第二豆清丸」（1/20）

○潜水用伝馬船（1/10）

○九尺型八丁櫓鮪漁船「盛漁丸」（1/10）

○港内用だるま船「第一共生丸」（1/20）

○鰹竿釣漁船「海形丸」（1/10）

○洋式帆船「大宝第二豆清丸」（1/30）

○北前船（1/30）

○運輸省航海訓練所練習船「日本丸」（1/100）

○コンテナ船「鎌倉丸」（1/100）

〈その他〉

○和船用大工道具

○船釘

○木造艇建造用道具類

○「ラブリレディ」進水記念斧

○「第一三ときわ丸」進水記念斧

○「清浦丸」進水記念斧

○六分儀

○舷窓

○フェンダー

○霧中信号（Fog Horn）

○「めきしこ丸」号鐘

○マスト灯

○舷燈

○信号旗

（1992年3月24日（火）現在）

2.2 愛知県

(3) 名古屋海洋博物館（名古屋市）

名古屋海洋博物館は名古屋港を見渡すビルの中なかにあり、共通入場券だと展望台や南極観測船「宗谷」もあわせて見物することができる。博物館には現在の各種の大型貨物船の模型、古くから交易に用いられていた世界の船、名古屋港で使用されていた船などが展示されている。写真撮影も自由で、雰囲気もよい。

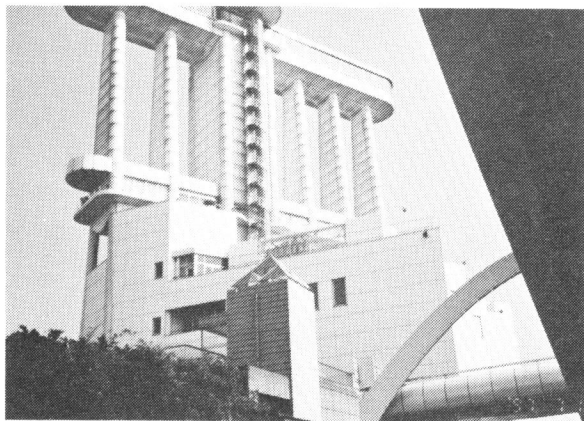


写真5 名古屋海洋博物館



写真6 名古屋港のハシケ、「尾張ダンベ」1/10模型

〈データ〉

名称：名古屋海洋博物館

英名：Nagoya Maritime Museum

所在地：455 名古屋市港区港町1番9号 名古屋港ポートビル内

交通：地下鉄「名古屋港」駅下車徒歩3分

郵便：455 名古屋市港区港町1番9号 名古屋港ポートビル内

電話：052-652-1111（代）

ファクシミリ：052-661-8646

所属：財団法人名古屋港文化センター

開館：1984年7月

入館時間：9：30～17：00（入場券発売は16：30まで）

休館日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月29日～1月1日

入館料：大人300円、小中高校生200円

（展望室、南極観測船ふじ共通券 大人700円、小中高校生400円）

写真撮影：可

印刷物：○名古屋海洋博物館（無料パンフレット）

○名古屋港ポートビル 名古屋海洋博物館展示あんない（510円）

展示：○客船「浅間丸」模型1/60

○オイルタンカー「日章丸」模型1/200（142833総トン、長さ340.6m、幅54.5m）

○「新さくら丸」模型1/200（16413総トン）

○自動車運搬船「神明丸」模型1/200（19799総トン、長さ225.0m、幅32.2m）

○「クリスタルシンフォニー」模型1/100

○コンテナ貨物船「日向丸」模型1/100

（船首楼付平甲板船、1984年5月23日竣工、35084総トン、30124載貨重量トン、全長209.5m）

○コンテナ貨物船「べらざのぶりっじ」模型

(39153総トン、長さ264.5m、幅32.2m、速力31.6ノット)

○名古屋港のハシケ(尾張ダンベ)模型1/10、松本岩男氏製作

○千石船(仮称熱田丸)模型

〈名古屋港貿易展示室〉

○キレニア(The Kyrenia)模型約1/14

東地中海のキプロス島沖合の海底から発掘された。2300年前の古代交易船。ギリシャ政府を中心とする関係者の努力によって1985年に原寸で復元された。この模型はその設計図面をギリシャより提供を受け忠実に製作された。

○ダウ船(Dhow Ship)模型

インド洋、アラビア海、紅海、ペルシャ湾で活躍している木造船。

太いマストと巨大な三角帆が特徴。基本構造は千年来ほとんど変わっていない。インド洋に吹く風を利用して交易にあっている。

○ジャンク模型約1/50

○遣唐使船模型約1/50

奈良時代から平安時代にかけて日本から中国の唐の都に送られた国の使節を国書や贈物と一緒に運んだ。630年の第一次遣唐使より894年の第十四次遣唐使まで数多くの留学生や留学僧が同行した。

交易船ではないが帰朝の際に唐の工人を招くなどして日本に新しい文化をもたらした。天平文化が花開いた。

(1997年7月19日(土曜日)現在)

2.3 長野県

(4) 下諏訪町立博物館(下諏訪町)

海から離れた内陸部でも船の博物館をみつけることができる。海のない長野県でも下諏訪町立博物館には諏訪湖で漁業などに使われていた小型の舟の実物が展示されている。博物館は1952年(昭和27年)に諏訪大社下社秋宮の神饌所にて、大社宝物館を兼ねて開館した。その後、1971年(昭和46年)に現在の所在地に建設され、博物館として独立した。館内は、諏訪湖の漁具、スケート資料、宿場資料、島木赤彦資料、土器や石器などの考古資料の部門に分かれている。諏訪湖の丸木舟は丸太をくりぬいただけの舟ではなく、丸太を半分に分り、それを削って船側材(ほと)としている。船側部は厚くふくらみ、船底は前後左右とも中央より高くなるようてそりをもつため、安定性や操縦性が良く、波に強い船型になっている。

この博物館は最近では珍しいスリッパを履いて見学する方式である。履きかえるのがうっとうしい反面、室内は清潔な感じがする。展示についての解説図録が整備されていることも博物館として大変良いことである。

なお最近の資料によると入館料は大人200円、小人100円に値上げされている。またさらに1993年(平成5年)6月15日には新装開館された。この報告は新装以前のものなので展示やスリッパを履く見学方法などについても変更されているかもしれない。

〈データ〉

名 称：下諏訪町立博物館

所 在 地：393 長野県諏訪郡下諏訪町高浜6188-8

電 話：0266-27-1627



写真7 下諏訪町立博物館



写真8 丸太舟（上）とわのせ丸太舟（下）

所 属：下諏訪町

交 通：国鉄中央本線下諏訪駅より徒歩20分、上諏訪行バス富ヶ丘下車徒歩5分

沿 革：1952年（昭和27年）開館

開館時間：8：30～17：00（平日、休日）、8：30～12：00（土曜日）〔入館は30分前まで〕

休 館 日：月曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日

入 館 料：大人150円、小人60円

写真撮影：可

出 版 物：○無料パンフレット

○展示解説図録（漁具）B5版、31p.（1979年3月発行）

展 示：○丸太舟（県民俗文化財）

全長6.90m、全幅1.03m、深さ0.40m、カラマツ製。明治時代中頃建造。江戸時代より使われた古い型の漁船。木材を二つに割り、内部をくりぬいて船側部材とする。船底部には別の板をつなぐ。

○わのせ丸太舟（県民俗文化財）

寸法は丸太舟に同じ。カラマツ製。大正時代末頃建造。

建造工程は丸太舟と同様だが船側部に「わのせ」と呼ばれるカラマツ材をのせて船側部材の深さの不足を補っている。

○漁船（りゅうせん）〔さんば舟〕

全長8.64m、幅0.70m、深さ0.33m、1943年（昭和18年）製作。

カラマツ板で造った構造船。丸太舟に似せて作らせているが軽く船底板に反りが少ない。

○作舟〔俗称：泥舟〕

全長7.95m、幅0.90m、深さ0.33m。

諏訪湖南部の低湿地に水田をもつ農家で使われた運搬船。

○田舟

○造船用具（丸太船大工の工作具）

きりよき。はびろ。丸ちょうな。平ちょうな。丸かんな。つばのみ。さぐり。釘しき。げんのう。ひわたかい。ひかわ。

○舟釘

ぬい釘。ねつけ釘。かくねつけ。こおとし。

○櫂（桜材）

手櫂。扶じ櫂。振じ櫂。

- 櫓（桜材）
- 舟棹（カラマツ材）
- かじとり（カラマツ材、長さ1.27m、幅0.11m）
- 錨（鉄製、重量3kg）
- 船外機（トウハツ製5馬力）

参考文献：○樋口秀雄、加藤有次：父と子の博物館、富士書店、p.205（1976年7月30日第1刷）

○考古学ライブラリー編集部編：博物館・資料館案内Ⅰー考古・歴史・民俗ー、ニューサイエンス社考古学ライブラリー7、p.63（1984年1月20日再版発行）

○川崎晃稔：日本丸木舟の研究、法政大学出版会、pp.96～98、p.471（1991年）
（1985年8月20日（火）現在）

2.4 新潟県

(5) 新潟県立海洋高等学校海洋博物館（能生町）

北陸本線の能生（のう）駅の近く、日本海を見下ろす高台の上に県立海洋高等学校がある。水産高等学校としての歴史は古く、1898年（明治31年）9月に新潟県西頸城郡能生町立尋常高等小学校において同校訓導兼学校長の片田久治郎が水産に関する授業をはじめたときを創基としている。1988年（昭和63年）10月15日には創立90周年記念式典が挙行された。1993年（平成5年）4月1日より新潟県立能生水産高等学校から新潟県立海洋高等学校となり、海洋科学科（35名）、食品科学科（40名）、海洋工学科（35名）の3学科が編成され新たなスタートとなった。

校内の一室に海洋博物館がおかれているが、以前は一つの建物として独立していたようである。創立90周年記念誌の年表によると、1954年（昭和29年）6月に校舎増築（9教室）ならびに海洋博物館移転改装竣工落成式挙行すと記されている。したがってこの頃はまだ独立した建物だったのかもしれない。

現在の館内には主として魚類を中心とした標本が多数展示されている。採水器など海洋調査機器の展示もある。これらに混じって千石船や漁船の模型が置かれている。となりの標本室にも未整理の標本や和船の模型、漁網を用いた漁法についての模型がある。

展示品のなかで魚の標本は生徒の実習などで採集して製作した手作りの作品で近海の魚類が集められ、貴重な資料となっている。また漁業実習船『越山丸』による収集品や卒業生が海外から持ちかえった品も多い。

かつては海洋博物館クラブもあり博物館としての活動も盛んであったようであるが、現在は展示や解説が整備されていないのが大変に残念である。今後も高等学校がもつ博物館という貴重な存在価値を高める努力を是非続けてもらいたい。魚の標本だけではなく、漁法の模型や模型船などの手作りの品が博物館以外の教室にもまだ見られるのだから、これらをうまく利用することも考えれば、決して派手ではないが自分たちの手作りの博物館として再生できるのではないだろうか。

〈データ〉

名 称：新潟県立海洋高等学校海洋博物館
 所 在 地：〒949-13 新潟県西頸城郡能生町大字能生3040
 電 話：0255-66-3155
 F A X：0255-66-4781
 交 通：北陸本線能生駅より徒歩10分
 沿 革：1954年6月移転改装
 所 属：新潟県立海洋高等学校
 開館時間：事前連絡のうえ



写真9 新潟県立海洋高等学校海洋博物館



写真10 千石船模型

休館日：学校休暇日

入館料：無料

写真撮影：可

出版物：—————

- 展 示：○手操木造漁船復元模型（縮尺1/35、総トン数25T）
 ○千石船模型（江戸時代の貨物船、長さ24.24m、幅7.27m、深さ2.17m）
 ○帆船模型
 ○船体半分模型（2隻）
 ○和船模型
 ○磁気コンパス（Tokura Keiki Seisakusho、1972年12月製作）
 ○2サイクルディーゼル機関模型（ユニフロー方式）
 ○燃料ポンプ模型（ボッシュ型）

参考文献：○吉羽和夫：『続・科学の散歩道』共立出版 共立科学ブックス43、p.170（1979年12月20日初版1刷発行）

- 新潟県立能生水産高等学校創立90周年記念誌編集委員会：
 『九十年の航跡』（1988年10月15日発行）
 （1993年6月24日（木）現在）

(6) マリンドリーム能生 海の資料室（能生町）

能生へ行くのに国鉄を利用する場合には能生駅、車を利用する場合には北陸自動車道の能生インターチェンジがあり便利である。海岸に沿って走る国道付近には弁天岩や民俗資料館、そして物産センターをもつ日本海の新しい観光拠点『マリンドリーム能生』がある。マリンドリーム能生は道の駅のような施設で、お土産屋や休憩所もつくられている。ここの海の資料室に多くの船の模型が展示されている。

<データ>

名 称：マリンドリーム能生 海の資料室

所 在 地：新潟県西頸城能生町

交 通：国道8号線沿い

問い合わせ：能生町観光協会 0255-66-2214



写真11 マリンドリーム能生

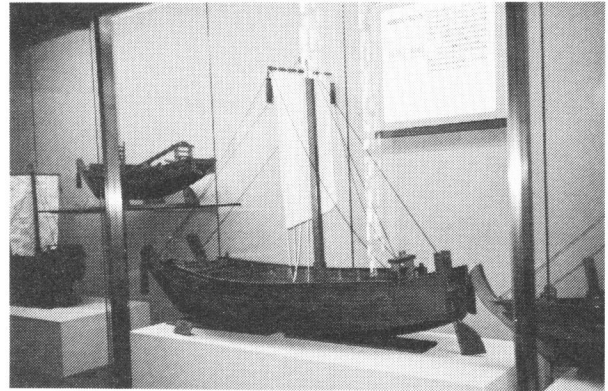


写真12 羽賀瀬船模型

開 館： _____

入館時間： _____

休 館 日： _____

入 館 料：大人200円、小人100円

写真撮影：可

展 示：○和船模型1～24（製作者：島根県浜田市 大下 匡 氏）

- (1) 遣唐使船：12世紀
- (2) 小型漁船：能生の港で昭和の初期まで見られた。
- (3) 遣唐使船： _____
- (4) 小型漁船：山陰地方の沿岸で漁業に使用された。
- (5) 遣唐使船：空海を乗せた第14次遣唐使船、弘法大師絵伝による。
- (6) 小型漁船：能生の港で昭和の初期まで見られた。
- (7) 遣明船：真如堂縁起絵巻より
- (8) 鯨船：幕政時代の参勤交代のとき御召船の先導や飛脚船として使用した。
- (9) 樽廻船：酒荷専用の廻船
- (10) 木更津船：江戸と木更津の間を往来し江戸時代から昭和10年頃まで使われていた。五大力が主で100石積みから300石積みの日常物資の運搬に使用した。
- (11) 菱垣廻船：近世海運の主役として使用された。
- (12) 出買船（でかいぶね）：瀬戸内海地方では漁場に出かけて魚を買う魚仲買人専用の船を出買船とよび、橘地区では魚市場で買い付けた魚を大阪などに運搬する専用船を含め出買船と呼んでいた。
- (13) 菱垣廻船： _____
- (14) 小越（ここし）：江戸湾の五大力と同じように使われた伊勢湾の小廻しの廻船、五大力より小型
- (15) 五大力（ごだいき）：江戸を中心とした関東周辺に日常消費物資の薪炭、米穀などを輸送した、50石積みから500石積みの廻船、昭和の初めまで東京湾を走っていた。
- (16) 鎌倉時代の大型漁船：この船は「北野天神縁起」諸本など鎌倉時代の絵画に描かれた大型漁船を模型化したもの。
- (17) 御座船：御召船ともよび海戦用の関船から転化した船、船幅が広く藩主や家老たちの持ち船をはじめ貨客船としても用いられた。
- (18) 関船：本来快速を第一に考えられた船であるため早船ともよばれた。戦国時代には戦艦を安宅とすれば巡洋艦に相当し水軍の構成上重要な存在だった。
- (19) 御座船： _____

- (20) 小早（こばや）：水軍の構成上欠かせない軍船の一つで関船を早船とよぶため小型の関船を小早とよんだ。
- (21) 北国船（ほっこくぶね）：近世前期の日本海運で重用されたが100石積みから1500石積みの廻船である弁財船が進出したため江戸中期以降急速に衰退した。青森県の円覚寺蔵の奉納絵馬をもとに模型化した。
- (22) 北前船（きたまえぶね）：北前船とは一つの船型を指すのではなく北陸地方を中心とした日本海海域の廻船の総称である。
江戸中期より弁財船が全国的に普及しそれと同時に北前船も弁財船化した。
- (23) 羽賀瀬船（はがせぶね）：北前船と同じく日本海海運の主力廻船で北国船が1000石積み以上であったのに対し羽賀瀬船は400石積み程度であったとされている。この模型は能生の白山神社蔵の奉納絵馬を参考に制作された。
- (24) 弁財船（べざいせん）：船の大小に関係なく千石船とよばれた弁財船は瀬戸内海で発達し17世紀末には帆走専用の廻船として脱皮した、近世の廻船として全国的な普及をみた。
- 越山丸（えつざんまる）模型：新潟県立能生水産高等学校の実習船、全長49.4m、深さ8.4m、総トン数437.41GT
 - 底引網漁船模型
 - 伝馬船（てんません）：能生の出村（西浜町）の漁師佐藤源吉さんが使っていたもの。櫓や櫂で漕いで能生弁天浜近くで磯もの（わかめ、てんぐさ、さざえ）などをとったり夏には磯ざしやキス釣りにも使用した。佐藤巖氏、佐藤哲哉氏、中村直治氏寄贈。
- （1995年6月17日（土曜日）現在）

(7) 十日町市博物館（十日町市）

十日町にとって信濃川の水上交通は重要な役目をはたしていたが、現在は飯山線と国道117号線の開通によって陸上輸送にかわってしまった。信濃川の水上交通は主として荷舟と筏によるものであった。荷舟は江戸時代には幕府の年貢米を運び、明治時代になると米、木炭、酒などを長岡方面へ運び、帰りの舟で塩、砂糖、醤油、海産物などの生活物資を運んだ。信濃川を水上交通に利用していたのは十日町の少し上流の水沢付近までであった。

荷舟としてははじめは長さ約14.5m、幅約2mの胴高船（どたかぶね）が使われていたが、明治30年代（1900年頃）になると長さ約22m、幅約3mの大型でスマートな江連舫（こうれんぼう）が使われるようになり、さらに急流に適し、速度も出る新型船の天竜船（てんりゅうぶね）が昭和の初め頃まで使われていた。その他にも長舟と呼ばれた各種の作業舟や渡し舟など十日町付近で使われた川舟は多い。

十日町市博物館ではかつて信濃川で使われていた江連舫と呼ばれる荷舟の模型と筏の模型、館の入口に長舟の実物が展示されている。

玉置正美氏の『産業遺跡探訪』（古今書院）によれば、もともと信濃川筋には重要な内陸交通網が形成され船道（ふなどう）と呼ばれていた。信濃川を利用した船舶交通の歴史はかなり古く、支流の魚野川においてすでに5世紀末に記録されている。川船の種類も多様で、荷舟としての「胴高舟」、「江連舫」のほかに漁撈用の「笹舟」、「ハナカマズ」、「網渡舟」（アミドブネ）、そして渡し舟や石舟（砂利舟）などである。これらの船舶関係資料が河川通運の衰退とともに消えてしまうのは残念である。是非どこかに保存しておきたい。

十日町市博物館のパンフレットには「雪と織物と信濃川」をテーマとしていることが示されているので、信濃川の舟を保存するのは最適である。またこの博物館のガイドブックとパンフレットには写真撮影を許可していることが明記されている。写真撮影を許可している博物館は多いが、このようにはっきりと示している博物館は少ない。写真撮影を許可しているかどうかは展示物が博物館のものではなく見に来る人々のためにあるという考えを示す一

つの指標である。この博物館が今後も多くの人から親しまれ、信濃川の船舶関係資料が充実することを期待している。

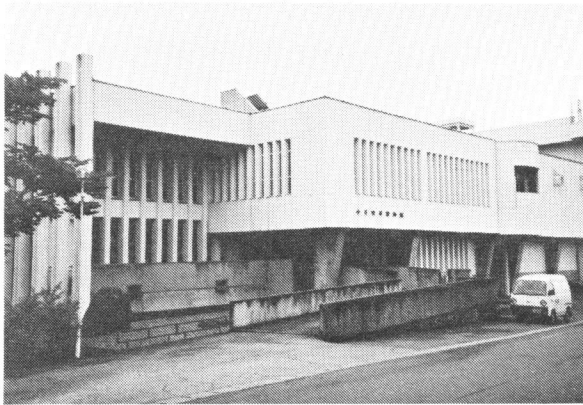


写真13 十日町市博物館



写真14 江連舫1/12模型

〈データ〉

名 称：十日町市博物館

英 名：Tokamachi City Museum

所 在 地：〒948 新潟県十日町市西本町1

電 話：0257-57-5531

F A X：0257-57-6998

交 通：飯山線十日町駅より徒歩10分

所 属：十日町市

沿 館：1979年（昭和54年）開館

開館時間：9：00～17：00

休 館 日：毎週月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始（12月27日～1月4日）

入 館 料：大人200円、中学生以下無料

写真撮影：可

出 版 物：○雪と織物と信濃川（無料パンフレット）

○信濃川（十日町市博物館常設展示解説書2、1982年3月31日発行、1000円）

展 示：○江連舫（こうれんぼう）1/12模型小出町鈴木造船所製作。

○筏模型、津南町石沢萬平氏製作。

〈館外〉

○長舟（ながふね）

全長8.71m、最大幅1.20m（船底部0.73m）、高さ0.55m（船首）0.41m（中央）0.76m（船尾）。

下条（げじょう）の蟹沢（かにざわ）の高橋建策氏が1966年（昭和41年）に川口町の片山造船で作り、石積みや砂利取りなどに使用した。

参考文献：○加藤有次監修：『ユニーク博物館』、毎日新聞社、p.129（1985年6月10日発行）

○全国美術館会議編：『全国美術館ガイド』、美術出版社、p.180（1992年1月10日発行）

○大塚和義、矢島國雄：『博物館学Ⅱ』、放送大学教育振興会（放送大学教材55745-1-9111）、pp.142～146（1991年1月10日第1刷発行）

（1993年6月24日（水）現在）

2.5 富山県

(8) 帆船海王丸

高岡駅より万葉線に乗り、ほぼ終点に近い海王丸駅で降りると、帆船の海王丸がある。万葉線ははじめ市内の道路を車と一緒に走るがやがて、線路は道路と別になる。海王丸のある場所は、将来は公園になるように計画されており、一部パビリオンなどが完成しその中にも北前船の模型が展示されている。今のところはまだ空地が多く、のんびりした風景である。



写真15 帆船海王丸

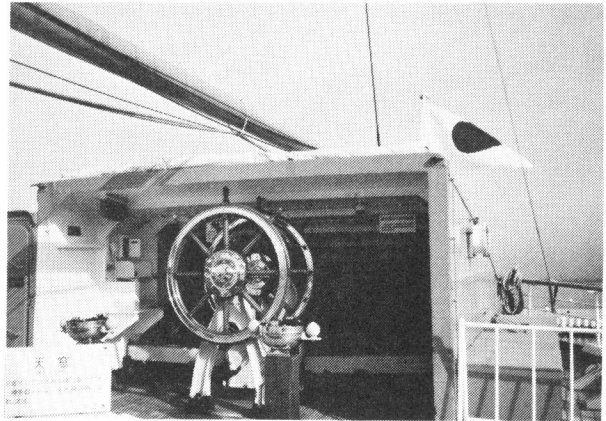


写真16 船尾の舵輪

〈データ〉

名 称：帆船海王丸

英 名：Kaiwo Maru

所 在 地：〒934 新湊市海王町 8 番地

電 話：0766-82-5181、5746

F A X：0766-82-5197

交 通：国鉄高岡駅から万葉線電車で約40分、海王丸駅下車、徒歩5分
国鉄高岡駅から海王丸駅行きバス

所 属：財団法人帆船海王丸財団

沿 革：1990年（平成2年）4月から新湊にて開館

開館時間：10：00～18：00（7月24日～8月31日）、10：00～17：00（3月1日～7月23日、9月1日～10月31日）、10：00～16：00（11月1日～2月28日）

入館は終了30分前まで

休 館 日：月曜日（振替休日のときは翌日）、国民の祝日と休日の翌日（土曜日、日曜のときは開館）、年末年始（12月29日～1月3日）

入 館 料：大人400円、小中学生200円

写真撮影：可

印 刷 物：○海の貴婦人 帆船海王丸（無料パンフレット）

（1993年10月14日現在）

3. 文献調査結果

文献^{(12)~(18)}から、船舶関係資料をもつと思われる博物館について調査した。その結果を県別にまとめ以下に示す。この中で◎印は現地調査した施設である。

〈静岡県〉

○相良町資料館

英 名 : Sagara - cho Historical Museum
住 所 : 42105 棒原郡相良町相良275 - 2
電 話 : 0548 - 52 - 4385
交 通 : 国鉄東海道本線静岡駅より特急バス御前崎行にて相良バス停下車、徒歩 5 分
所 属 : 相良町
沿 革 : 1981年(昭和56年)開館
開館時間 : 9 時~16時
休 館 日 : 月曜日、第 3 日曜日、祝日の翌日、12月27日~1 月 4 日
入 館 料 : 大人200円、18歳未満100円
展 示 : 表日本最古の千石船模型

○清水港湾博物館 (◎)

英 名 : Shimizu Port Terminal Museum
住 所 : 424 清水市港町2 - 8 - 11
電 話 : 0543 - 52 - 8060
交 通 : 国鉄東海道本線清水駅または静鉄新清水駅より静鉄バス三保線波止場下車
所 属 : 財団法人清水港湾博物館
沿 革 : 1978年(昭和53年) 7 月20日清水港湾資料館として開館
開館時間 : 9 : 30~16 : 30
休 館 日 : 月曜日、年末年始
入 館 料 : 大人400円、中学高校生300円、小学生200円
展 示 : 模型船

○東海大学海洋科学博物館

英 名 : Marine Science Museum, Tokai University
住 所 : 424 清水市三保2389
電 話 : 0543 - 34 - 2385
交 通 : 東海道本線清水駅よりバス三保ランド行、終点下車徒歩 5 分
所 属 : 東海大学
沿 革 : 1970年(昭和45年) 5 月 2 日開館
開館時間 : 9 時~17時
休 館 日 : 12月21日~1 月 1 日
入 館 料 : 大人2400円、小人1200円
展 示 : 海洋調査船「東海大学丸 2 世」

○沼津市歴史民俗資料館

英 名 : Numazu City Museum

住 所 : 410 沼津市下香貫島郷2802-1 沼津御用邸記念公園内

電 話 : 0559-32-6266、6267

交 通 : 東海道本線沼津駅より多比・伊豆長岡方面行バス御用邸前下車、徒歩1分

駐 車 場 : 有

所 属 : 沼津市

沿 革 : 1974年（昭和49年）12月10日開館

開館時間 : 9時～16時

休 館 日 : 月曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日、毎月末日（日曜日のときは前日）

入 館 料 : 記念公園の入園料として大人100円、小人50円

展 示 : 漁船

○戸田村立造船郷土資料博物館（◎）

英 名 : Heda Museum

住 所 : 41034 田方郡戸田村御浜2710-1

電 話 : 055894-2384

交 通 : 伊豆箱根鉄道修善寺駅より東海バス戸田下車、または沼津港から観光船戸田港下船

所 属 : 戸田村

沿 革 : 1969年（昭和44年）7月1日開館

開館時間 : 9時～16時30分

休 館 日 : 水曜日、12月29日～1月1日

入 館 料 : 大人300円、小人100円

展 示 : ディアナ模型、ヘダ模型

○細江町立姫街道歴史民俗資料館

英 名 : Hosoe-cho Himekaido Historical Folk Museum

住 所 : 43113 引佐郡細江町気賀1015番地の1

電 話 : 05352-3-1456

交 通 : 二俣線気賀駅下車徒歩7分

所 属 : 細江町

沿 革 : 1980年（昭和55年）8月5日開館

開館時間 : 9時～16時30分

休 館 日 : 月曜日、祝日の翌日（月曜日の場合はその翌日）、12月29日～1月3日

入 館 料 : 大人150円、小人100円

展 示 : 罟目網漁船

○舞阪町立郷土資料館

英 名 : Maisaka-cho Local Museum

住 所 : 43102 浜名郡舞阪町2668-56

電 話 : 053-592-7000

交 通：東海道線弁天島駅下車、徒歩20分
所 属：舞阪町
沿 革：1990年（平成2年）8月8日開館
開館時間：10時～18時（4月～9月）、9時～17時（10月～3月）、9時～16時（土日）
休 館 日：月曜日、祝日、年末年始、第1木曜日
入 館 料：無料
展 示：明治期のカツオ船模型

○焼津市歴史民俗資料館

英 名：Yaizu City Folk Historical Museum
住 所：425 焼津市三ヶ名1550
電 話：054-629-6847
交 通：東海道本線焼津駅より静鉄バス藤枝行文化センター前下車徒歩2分
所 属：焼津市
沿 革：1985年（昭和60年）6月30日開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日（祝日のときは翌日）、12月29日～1月3日
入 館 料：無料
展 示：第五福龍丸関係資料

○焼津漁業資料館

英 名：Yaizu Fishery Material Hall
住 所：425 焼津市中港2-6-13
電 話：054-628-7112
交 通：東海道線焼津駅下車徒歩7分
所 属：漁業組合
沿 革：1979年（昭和54年）8月開館
開館時間：9時～16時
休 館 日：火・土曜日、8月13日～17日、年末年始
入 館 料：大人300円、小人100円
展 示：54トン型カツオ船のブリッジ、まぐろ船模型、はえなわ船模型

<愛知県>

○名古屋海洋博物館（◎）

英 名：Nagoya Maritime Museum
住 所：455 名古屋市港区港町1-9 名古屋港ポートビル内
電 話：052-652-1111
交 通：名古屋地下鉄名城線名古屋港駅下車徒歩4分
所 属：名古屋港管理組合
沿 革：1984年（昭和59年）7月20日開館
開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月曜日（祝日のときは翌日）

入館料：大人300円、小人100円

展示：模型船

○半田市立博物館

英名：Handa Municipal Museum

住所：475 半田市桐ヶ丘4-7-3

電話：0569-23-7173

交通：名鉄河和線知多半田駅下車徒歩25分、または成岩駅下車徒歩15分

駐車場：有

所属：半田市

沿革：1984年（昭和59年）10月1日開館

開館時間：10時～17時30分

休館日：月曜日、第2火曜日、12月28日～1月5日

入館料：無料

展示：ダンベ船模型

○南知多町郷土資料館

英名：Minamichita-cho Folk Material Museum

住所：47033 知多郡南知多町大字内海字柴井1-66

電話：0569-62-2218

交通：名鉄内海駅下車徒歩20分

所属：南知多町

沿革：1977年（昭和52年）8月1日開館

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日

入館料：無料

展示：船大工道具

<山梨県>

<長野県>

○下諏訪町立諏訪湖博物館（◎）

英名：Shimosuwa Lake Suwa Museum and Akahiko Memorial Museum

住所：393 諏訪郡下諏訪町西高木10616-111

電話：0266-27-1627

交通：国鉄中央本線下諏訪駅下車徒歩20分、バス上諏訪行富ヶ丘下車徒歩5分

所属：下諏訪町

沿革：1952年（昭和27年）開館、1993年（平成5年）6月15日新装開館

開館時間：9時30分～18時

休館日：火曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日

入館料：大人350円、小人170円

展示：諏訪湖民俗資料

○諏訪市博物館

英名：Suwa City Museum

住所：392 諏訪市大字中洲字鳥居171-2

電話：0266-52-7080

交通：上諏訪駅より諏訪バス約25分、上社前下車徒歩1分

所属：諏訪市

沿革：1990年（平成2年）10月28日開館

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日、祝日休日の翌日、年末年始

入館料：大人310円、小中学生150円

展示：諏訪湖漁業関係資料

〈岐阜県〉

○川島町ふるさと史料館

英名：Kawashima-machi Local Material Hall

住所：50161 羽島郡川島町松倉1951-4

電話：058689-2811（町民会館）

交通：国鉄名鉄尾張一の宮駅よりバス川島松倉行松倉下車徒歩10分

所属：川島町

沿革：1983年（昭和58年）4月15日開館

開館時間：13時30分～16時30分

休館日：月曜日（祝日のときは翌日も）、祝日、年末年始

入館料：無料

展示：木曾川関係資料

○岐阜市歴史博物館

英名：Gifu City Museum of History

住所：500 岐阜市大宮町2-18-1（岐阜公園内）

電話：058-265-0010

交通：国鉄岐阜駅名鉄新岐阜駅より市内バス長良方面行岐阜公園歴史博物館前下車

所属：岐阜市

沿革：1985年（昭和60年）11月1日開館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月4日

入館料：大人300円、小人150円

展示：長良川鵜飼資料

〈新潟県〉

○海運資料館

英 名 : Marine Transportation Museum
住 所 : 95206 佐渡郡小木町大字小木町
電 話 : 0259 - 86 - 3191
交 通 : 佐渡汽船および新潟交通の小木営業所から徒歩3分
所 属 : 小木町
沿 革 : 1980年（昭和55年）11月開館
開館時間 : 8時30分～16時30分
休 館 日 : 年末年始、12月～2月の土曜日、日曜日、祝日
入 館 料 : 大人400円、小人200円
展 示 : 千石船模型、船大工道具

○佐渡国小木民俗博物館

英 名 : Ogi Folk Museum of Sado
住 所 : 95206 佐渡郡小木町大字宿根木
電 話 : 0259 - 86 - 2604
交 通 : 佐渡汽船小木港よりバス10分
所 属 : 小木町
沿 革 : 1971年（昭和46年）6月14日開館
開館時間 : 8時30分～16時30分
休 館 日 : 年末年始、12月～2月の土曜日、日曜日、祝日
入 館 料 : 大人400円、小人200円
展 示 : 船大工道具と磯舟など（国重要文化財指定）、南佐渡の漁労用具

○紫雲寺町立漁村民俗資料館

英 名 : Shiunji-cho Fishing Village Folk Museum
住 所 : 95702 北蒲原郡紫雲寺町大字藤塚浜3585 - 110
電 話 : 0254 - 41 - 2291（教育委員会）
交 通 : 羽越線新発田駅よりバス藤塚浜行き終点下車、徒歩5分
所 属 : 紫雲寺町
沿 革 : 1979年（昭和54年）6月開館
開館時間 : 9時～16時（見学希望に応じて開館）
休 館 日 : 特に定めていない（電話などで事前に連絡があれば随時開館する）
入 館 料 : 無料
展 示 : 和船、錨、コンパス、船具

○上越市立水族博物館

英 名 : Jyoetsu Municipal Aquarium
住 所 : 942 上越市西本町4 - 19 - 27
電 話 : 0255 - 43 - 2449

交 通：信越線直江津駅より徒歩10分
所 属：上越市
沿 革：1980年（昭和55年）7月18日、現在地に移転開館
開館時間：9時～17時（夏期特別展期間中は18時まで）
休 館 日：月曜日、祝日の翌日（7、8月は無休）、年末年始
入 館 料：大人900円、小中学生400円、幼児200円
展 示：どぶね（国指定重要有形民俗文化財）

○しろね大侃と歴史の館

英 名：Shirone Odako and Historical Museum
住 所：95012 白根市大字上下諏訪木1770-1 白根総合公園内
電 話：025-372-0314
交 通：新潟交通電鉄白根駅より徒歩20分
所 属：白根市
沿 革：1994年（平成6年）8月6日開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：水曜日（祝日の場合は翌日）、12月28日～1月4日
入 館 料：大人400円、小中学生・高校生200円
展 示：川船復元模型

○十日町市博物館（◎）

英 名：Tokamachi - City Museum
住 所：948 十日町市西本町1
電 話：0257-57-5531
交 通：飯山線十日町駅より徒歩10分
所 属：十日町市
沿 革：1979年（昭和54年）4月開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：月曜日、祝日の翌日、年末年始
入 館 料：大人200円、中学生以下無料
展 示：信濃川川船復元模型

○天領出雲崎時代館

英 名：Tenryoizumozaki Jidaikan
住 所：94943 三島郡出雲崎町大字尼瀬6番57
電 話：0258-78-4000
交 通：越後線出雲崎駅よりバス15分
所 属：出雲崎町
沿 革：1994年（平成6年）4月29日開館
開館時間：9時～17時
休 館 日：水曜日、年末年始

入館料：大人500円、小中学生400円、幼児無料

展 示：北前船

<富山県>

○帆船海王丸（◎）

英 名：Kaiwo Maru

住 所：934 新湊市海王町8番地

電 話：0766-82-5181、5746

F A X：0766-82-5197

交 通：国鉄高岡駅から万葉線電車で約40分、海王丸駅下車、徒歩5分

国鉄高岡駅から海王丸駅行きバス

所 属：財団法人帆船海王丸財団

沿 革：1990年（平成2年）4月から新湊にて開館

開館時間：10：00～18：00（7月24日～8月31日）、10：00～17：00（3月1日～7月23日、9月1日～10月31日）、10：00～16：00（11月1日～2月28日）

入館は終了30分前まで

休館日：月曜日（振替休日のときは翌日）、国民の祝日と休日の翌日（土曜日、日曜日のときは開館）、年末年始（12月29日～1月3日）

入館料：大人400円、小中学生200円

○魚津歴史民俗博物館

英 名：Uozu History and Folklore Museum

住 所：937 魚津市小川寺字天神山1070

電 話：0765-31-7220、31-7045

交 通：北陸線大聖寺駅よりバス橋立行きで15分

所 属：加賀市

沿 革：1983年（昭和58年）10月8日開館

開館時間：9時～16時30分

休館日：年末年始

入館料：大人310円、小中学生・高校生100円

展 示：漁具

○氷見市立博物館

英 名：Himi City Museum

住 所：935 氷見市本町4-9 氷見市教育文化センター

電 話：0766-74-8231、8233

交 通：国鉄氷見線氷見駅下車徒歩7分

所 属：氷見市

沿 革：1982年（昭和57年）8月1日開館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月曜日、祝日（月曜日のときはその翌日）、年末年始

入館料：大人100円、小中学生50円

展示：ブリ定置網など漁業資料

○福岡町歴史民俗資料館

英名：History and Folklore Museum of Fukuoka Town

住所：93901 西礪波郡福岡町下向田（町民公園内）

電話：0766-64-5602

交通：北陸本線福岡駅より町営バス町民公園前下車徒歩8分

所属：福岡町

沿革：1988年（昭和63年）11月3日開館

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日、12月29日～1月3日、教育委員会の定める日

入館料：大人100円、小中学生50円

展示：漁具

○大境ビジターセンター漁業生活資料館

英名：Osakai Visitor Center

住所：93504 氷見市大境

電話：0766-78-1851

交通：氷見線氷見駅よりバス脇行き大境下車

所属：富山県

沿革：1974年（昭和49年）開館

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日

入館料：無料

展示：漁撈具

<石川県>

○北前船の里資料館

英名：Kitamae-bune Material Hall

住所：92205 加賀市橋立町イ乙1-1

電話：07617-5-1250

交通：北陸線大聖寺駅よりバス橋立行きで15分

所属：加賀市

沿革：1983年（昭和58年）10月8日開館

開館時間：9時～16時30分

休館日：年末年始

入館料：大人310円、小中学生・高校生100円

展示：江戸時代の和船模型、明治時代の洋式帆船模型、和磁石、海図

○小松市立博物館分館、歴史民俗資料館

英 名 : A Branch Komatsu Municipal Museum - Folk Historical Museum
住 所 : 923 小松市小馬出町5
電 話 : 0761 - 22 - 4111 (内線2650)
交 通 : 北陸線小松駅より徒歩15分
所 属 : 小松市
沿 革 : 1981年(昭和56年)11月3日開館
開館時間 : 9時～17時(入館は16時30分まで)
休 館 日 : 第3日曜日、その他の週の月曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
入 館 料 : 大人・大学生300円、小中学生・高校生150円
展 示 : 「北陸の海運」(北前船模型)

○銭五遺品館

英 名 : Zenigo Memorial Hall
住 所 : 92003 金沢市金石西1-6-18
電 話 : 0762 - 67 - 2333
交 通 : 北陸本線金沢駅より徒歩10分、中橋バス停より金石大野、大野港行きバス
金石バスターミナル下車すぐ
所 属 : 銭五顕彰会
沿 革 : 1968年(昭和43年)7月21日開館
開館時間 : 9時～17時(4月～11月)、9時30分～17時(12月～3月)
休 館 日 : 火曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月4日
入 館 料 : 大人250円、小中学生・高校生150円
展 示 : 北前船模型、オランダ製羅針盤

○羽咋市歴史民俗資料館

英 名 : Hakui Historical Museum
住 所 : 925 羽咋市鶴多町鶴多田38-1
電 話 : 0767 - 22 - 5998
交 通 : 七尾線羽咋駅より徒歩15分、またはバス文化会館前下車徒歩2分
所 属 : 羽咋市
沿 革 : 1982年(昭和57年)10月28日開館
開館時間 : 9時30分～17時(入館は16時30分まで)
休 館 日 : 月曜日、祝日(文化の日は開館)、12月28日～1月4日
入 館 料 : 大人100円、小人50円
展 示 : 北前船関係資料

○門前町天領北前船資料館

英 名 : Monzenmachi Museum of Tenryo and Kitamaebune
住 所 : 92721 鳳至郡門前町黒島町口114-2
電 話 : 0768 - 43 - 1193

交通：北陸本線金沢駅より北陸鉄道特急バス門前行き南黒島下車徒歩5分
所属：門前町
沿革：1992年（平成4年）9月28日開館
開館時間：9時～16時
休館日：月曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
入館料：大人300円、小中学生150円
展示：北前船「金毘羅丸」の帆桁、北前船の遺品

○石川県海洋漁業科学館（うみとさかなの科学館）

英名：Ishikawa Prefectural Ocean Fishery Science Museum
住所：92704 鳳至郡能都町宇出津新港3-7
電話：0768-62-4655
交通：七尾線、のと鉄道宇出津駅より徒歩約15分
所属：石川県
沿革：1994年（平成6年）4月27日開館
開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）
休館日：月曜日（祝日のときは開館）、12月28日～1月3日
入館料：高校生以上200円
展示：漁船「禄剛丸」

<福井県>

○大野市歴史民俗資料館

英名：Ohno Municipal History & Folklore Museum
住所：912 大野市天神町2-4
電話：0779-65-5520
交通：越美北線越前大野駅より徒歩15分
所属：大野市
沿革：1986年（昭和61年）8月8日開館
開館時間：9時～16時（平日）、9時～17時（日曜、祝日）
休館日：月曜日、祝日の翌日、12月から3月の日曜祝日、12月28日～1月3日
入館料：大人100円、小中学生50円
展示：藩船「大野丸」1/10模型

○敦賀郷土博物館

英名：Tsuruga Local Museum
住所：914 敦賀市三島町1-3-3 八幡神社境内
電話：07702-2-1193
交通：北陸本線敦賀駅より徒歩15分
駐車場：有
所属：八幡神社
沿革：1950年（昭和25年）10月1日開館

開館時間：9時～16時

休館日：無休

入館料：大人200円、大学生150円、高校生100円、小中学生50円

展示：北前船の絵馬

○福井県秀芳館

英名：Fukuiken Shuhokan Military Collection

住所：910 福井市大宮2-13-8 護国神社境内

電話：0776-22-5872

交通：北陸本線福井駅より市バス武道館行き護国神社前下車

所属：護国神社

沿革：1970年（昭和45年）8月15日開館

開館時間：10時～17時

休館日：無休

入館料：無料

展示：各種軍艦模型

○福井県立博物館

英名：Fukui Prefectural Museum

住所：910 福井市大宮2-19-15（幾久公園内）

電話：0776-22-4675

交通：北陸本線福井駅より京福バス県立博物館前下車

所属：福井県

沿革：1984年（昭和59年）4月8日開館

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：月曜日、祝日（子供の日、文化の日は開館）、年末年始

入館料：大人100円、小中高生、70歳以上無料

展示：北前船関係資料

○福井県立若狭歴史民俗資料館

英名：Fukui Prefectural Wakasa Historical Folk Museum

住所：91702 小浜市遠敷2-104

電話：0770-56-0525

交通：小浜線東小浜駅下車徒歩5分

所属：福井県

沿革：1982年（昭和57年）10月1日開館

開館時間：9時～16時30分

休館日：月曜日（祝日のときは翌日）、年末年始

入館料：大人150円、小人70円

展示：丸木舟

○三方町立郷土資料館

英 名 : Mikata - cho Local Museum

住 所 : 91313 三方郡三方町中央1 - 5

電 話 : 0770 - 45 - 2270

交 通 : 国鉄小浜線三方駅より徒歩10分

所 属 : 三方町

沿 革 : 1982年(昭和57年) 8月14日開館

開館時間 : 9時~17時

休 館 日 : 月曜日、祝日の翌日、12月28日~1月4日、展示替え期間

入 館 料 : 大人150円、小中学生100円

展 示 : ユリ遺跡出土の丸木舟

○みくに龍翔館(三国町郷土資料館)

英 名 : Ryushokan (Mikuni - cho Local Material Hall)

住 所 : 913 坂井郡三国町緑ヶ丘4 - 2 - 1

電 話 : 0776 - 82 - 5666

交 通 : 京福電鉄三国駅より徒歩10分

所 属 : 三国町

沿 革 : -

開館時間 : 9時30分~16時30分

休 館 日 : 第3日曜日、12月28日~1月3日

入 館 料 : 大人300円、小人150円

展 示 : 千石積ベザイ船 1/5模型、北前船に関する資料

4. 結 言

本報告では中部地方における8施設についての現地調査と41施設についての文献調査結果を示した。今までの調査結果を県別にみると表1のようになる。この表によると当然の海に面していない県において船に関する資料があまりみられない。今回の調査において山梨県などがこれに相当する。これらについては今後もさらに詳しく調査をしていきたい。

表1 海事関係博物館調査結果

県名	現地調査結果	文献調査結果
北海道	6	30
東北地方	4	41
青森県	1	12
岩手県	1	7
宮城県	0	5
秋田県	2	10
山形県	0	5
福島県	0	0
関東地方	14	49
茨城県	3	6
栃木県	0	4
群馬県	0	0
埼玉県	0	2
千葉県	5	13
東京都	4	15
神奈川県	2	9
中部地方	8	41
静岡県	2	9
愛知県	1	3
山梨県	0	0
長野県	1	2
岐阜県	0	2
新潟県	3	7
富山県	1	5
石川県	0	6
福井県	0	7

参考文献

- (1) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その1）－西ドイツの博物館－、東京商船大学研究報告（人文科学）第40号、pp.83-99（1989年12月）
- (2) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その2）－西ドイツ（続）・オランダ・ベルギー－、東京商船大学研究報告（人文科学）第41号、pp.89-114（1990年12月）
- (3) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その3）－ノルウェー・スウェーデン・デンマーク－、東京商船大学研究報告（人文科学）第42号、pp.73-91（1991年12月）
- (4) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その4）－イギリス・フランス・イタリア・スロベニア－、東京商船大学研究報告（人文科学）第43号、pp.87-106（1992年12月）
- (5) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その5）－アメリカ－、東京商船大学研究報告（人文科学）第44号、pp.41-67（1993年12月）
- (6) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その6）－中国－、東京商船大学研究報告（人文科学）第45号、

pp.13-19 (1995年3月)

- (7) 庄司邦昭：海事工学に関する博物館について（その7）－オーストラリア・ニュージーランド－、東京商船大学研究報告（人文科学）第46号、pp.1-26（1996年2月）
- (8) 庄司邦昭：ヨーロッパ船の博物館ガイド、大空社（1998年6月）
- (9) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その1）－北海道－、東京商船大学研究報告（人文科学）第47号、pp.15-31（1997年2月）
- (10) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その2）－東北地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第48号、pp.41-60（1998年1月）
- (11) 庄司邦昭：日本の海事工学に関する博物館について（その3）－関東地方－、東京商船大学研究報告（人文科学）第49号、pp.41-60（1999年1月）
- (12) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅰ－考古・歴史・民俗－、ニューサイエンス社（1984年1月）
- (13) 考古学ライブラリー編集部編：博物館資料館案内Ⅱ－教育委員会・埋文センター・研究会一覧－、ニューサイエンス社（1984年1月）
- (14) 全国美術館会議編：全国美術館ガイド、美術出版社（1992年1月10日）
- (15) 樋口秀雄・加藤有次監修：父と子の博物館、富士書店（1976年7月）
- (16) 加藤有次監修：ユニーク博物館、毎日新聞社（1985年5月）
- (17) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧、第2巻、ぎょうせい（1995年6月）
- (18) 日本博物館協会編集：全国博物館総覧、第3巻、ぎょうせい（1995年6月）